

水曜討論



須磨学園長

西 和彦さん

親子で1人1台のスマートフォンを持つような時代に、学校への持ち込みを防ぎ続けるのは現実的ではないでしょう。文部科学省の指針見直しは世の中の流れに沿つたものだと思います。

私が経営に携わる須磨学園中学校・高校（神戸市）は公立高とは違い、以前から学園の運営方針として携帯持ち込みを認めていました。多くの生徒が使うようになったため、現実にそぐわない規制を設けるよりも適正な

ルール徹底利用法学ぶ

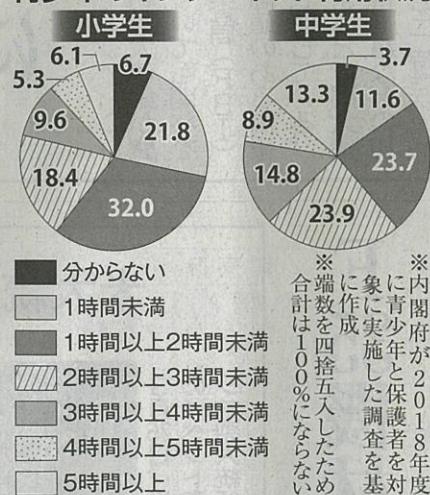
みを容認したことや、全国的に小中学生の所有率が高まっていることが背景にある。持ち込みを容認した場合の利点や問題点などについて、識者に聞いた。

携帯電話やスマートフォン（スマホ）の小中学校への持ち込みについて、文部科学省は2月末、原則禁止を10年ぶりに見直す方針を示した。大阪府教委が防災・防犯の観点で4月から持ち込

子どものスマホ保有 ネットいじめや出会い系サイト絡みの事件など携帯電話やスマートフォンに関する子どものトラブルが増加したことを受け、文部科学省は2009年、小中学校への携帯やスマホの持ち込みを「原則禁止」とする通知を全国の都道府県教育委員会に出した。一方で、子どもの所有率は年々上昇。近年は小学生でも5割を超えており、従来の指針が「時代に合わなくなっている」との声が高まっていた。

昨年6月には、最大震度6弱を記録した大阪北部地震が登校時間帯に発生。保護者から「長時間子どもと連絡が取れず困った」として持ち込みについて柔軟な対応を求める意見が相次いだ。大阪府教委は今年2月、全国に先駆けて持ち込み容認を決定した。

青少年のインターネット利用状況



■大阪府教委のガイドラインの要旨

- ▽府教委は携帯電話やスマートフォンの所持を推奨も否定もしない
- ▽登下校時の防災・防犯のために所持を認めるが、かばんの中に入れ使用しない
- ▽校内では電源を切ってかばんの中に入れ、児童生徒自身が管理。災害時など学校が許可した場合は使用できる
- ▽保護者は災害など緊急時以外に、児童生徒に連絡しない

にし・かずひこ 兵庫県出身。早大理工学部中退。在学中の1977年にアスキー出版を創業。米マイクロソフト創業者ビル・ゲイツ氏に誘われて同社極東担当副社長も務めた。その後教育者に転身し、2002年から現職。東大工学部のIoTメディアラボラトリーで機械工学も研究。63歳。

取れる携帯が無いと親は不安なのでしょう。昨年6月に起きた大阪北部地震では、発生から1時間以内に制携帯を通じて生徒全員の安否確認ができました。

心配なのは、教員の目の届かないところでいじめの道具になってしまことです。利用状況を把握できるよう、携帯電話会社と契約して学園専用サーバーを設け、保護者からの要請があれば通話やメールの履歴をたどれるようにしました。実際、生徒がアダルトサイトに接続したり、悪意のあるメールを他人に送ったりした事案もありました

が、証拠が残っていたため教員が適切に対処できました。

また、インターネットの使いすぎで勉強時間や睡眠時間が削られる懸念もあります。有害サイトの閲覧を制限するフィルタリングを設定し、深夜にネットが使えないようにする利用時間

制限をかけています。授業中は教員が指示した時以外は使ってはいけないというルールも徹底しています。

小学校低学年ぐらいまではスマート利用を制限する必要がある

と思いますが、中学生以上は使用自体を制限する必要はなく、むしろ自ら使ってみて危険を学ばせるほうがいいと思います。

うまく使えば授業に生かすことができます。理科や社会では調べものをする時に便利ですし、英語では音声認識アプリを使つた発音トレーニングに取り組んでいます。ただ、メールを多用するため文章力が落ちていると感じることもあるので、作文などはしっかりと指導するよう現場に指示しています。

以前からスマートの利用を認めてきた立場からすれば、今頃になって学校への持ち込み解禁というのは遅すぎる気がします。世の中の常識は時代の流れの中で常に変化するので、学校側もそれに合わせて積極的に変わっていく必要があると思います。

（東京報道 大城道雄）